

高齢者の社会貢献活動についての一考察

— 大阪市内で行われている自然環境学習を事例として —

○今津乃理子* 中山徹** (*奈良女子大・院, **奈良女子大)

【目的】学校、地域、家庭における環境学習が重要視されている。また、高齢者の人材活用や積極的な社会参加、生涯学習が求められている。このような状況で、高齢者が自らの余暇時間を活用し、自然体験行事や多彩な自然とのふれあいなどを組み込んだ自然環境学習の指導者になることが期待できる。本研究では、高齢者が指導する自然環境学習を取り上げ、高齢者から指導を受けた参加者の自然とのふれあいや世代間交流の状況を把握し、高齢者が活動する場の必要性和自然環境学習に対する高齢者の人材活用の意義を考察した。

【方法】(社)大阪自然環境保全協会が主催する自然活動リーダー養成実践講座「大阪シニア自然大学」の修了生が指導する自然環境学習のうち、2つの活動を取り上げ、調査を行った。1つは、高齢者が小学校における総合学習として行われた自然観察を指導する活動で、調査対象は大阪市立 K 小学校5、6年生。2つ目は、大阪市環境学習センター主催で行われた親子向け自然体験行事を指導する活動であり、調査対象は、行事に参加した保護者である。

【結果】2つの調査の対象者は、共に核家族が多く、花や木の名前を教わるなど自然に関する話を子供にしてくれる人は、学校の先生もしくは家族であり、その他の人から話を聞く機会はほとんどないことがわかった。また、両調査対象者共に、中高年者からの指導を歓迎している。高齢者が指導者となって行う自然環境学習は、高齢者の人材活用、社会参加が期待できるだけでなく、世代間交流の場として評価できる。